

たつの市定例記者会見資料	
発表年月日	令和3年4月5日（月）
担当課	教育事業部歴史文化財課 龍野歴史文化資料館
電話	0791-63-0907

報道機関各位

龍野歴史文化資料館所蔵資料

## 豊臣（羽柴）秀吉の書状の発見及び公開について

たつこの市内の旧家から秀吉の書状2点が新たに発見されました。これらの新出史料を、2015年春に発表し大きな話題となりました秀吉の書状と合わせて、特別公開します。

### 記

#### 1 新発見の秀吉関連資料

##### (1) 垣屋孫市宛領知宛行状 天正11年(1583)8月朔日 折紙 31.5×50.0

内容：秀吉から垣屋孫市に摂州菟原郡（うばらぐん・現在の神戸市東灘区・灘区の大部分・中央区の一部）のうち森村200石の領知を与えた書状。

##### (2) 豊臣秀吉朱印状 文禄3年(1594)10月17日 折紙 46.4×65.6

内容：秀吉から垣屋孫市に、菟原郡のうち本庄内200石を検地の上与えた書状。

※浅野長吉(長政)からの書状・御知行分目録(文禄3年)も併せて発見されました。

#### 2 発見の経緯

平成30年秋に村田家(新宮町平野。現在は市外へ転居)の調査を行いました。村田家は江戸時代脇坂家の家臣であり、明治時代になり新宮町に転居しました。江戸時代に村田氏と垣屋氏との間に婚姻関係があったと村田家に伝わっており、垣屋氏の文書が村田家に伝わったと思われます。

今回発見された大量の古文書を竹本敬市先生(姫路大学教育学部特別特任教授)が整理・目録作成を行う過程で、秀吉の書状を発見しました。目録に沿ってラベル貼りなどの整理が終了し、秀吉研究の第一人者である前田徹氏(兵庫県立歴史博物館学芸員)の確認を終え、外部からの調査依頼に対応できるようになったため、公開します。

#### 3 垣屋氏について

##### (1) 但馬国守護 山名氏の家臣

垣屋氏は戦国時代、但馬国守護山名氏の四天王の一人として知られており、山名氏が播磨国を治めた時期に播磨国守護代に配置されました。応仁の乱以降、主君をしのぐほど勢力を拡大していく中で、惣領家の越前守と越中守・駿河守に分家しました。

## (2) 垣屋孫市について

垣屋孫市は駿河守系の人物です。但馬に伝わった「垣屋氏系図」(2次資料)によると、龍野垣屋氏の祖である垣屋豊政が垣屋孫市の嫡男で、母は脇坂安治の養女で、玄昌院(安治の妻)の姪であり、母が亡くなったあとに脇坂家に引き取られたことが書かれています。

## (3) 但馬の垣屋氏

垣屋氏の出自である轟城跡にある秋葉神社には垣屋駿河守豊統の木造が祀られており、地元区の有志により毎年4月に供養を行っています。

## (4) 龍野の垣屋氏

脇坂藩士の名簿ともいえる「諸氏略系」によると「垣屋太郎左衛門・豊政」から系図が始まり禄高300~500石の上級家臣です。また、村田家文書にある垣屋氏の系図によると、孫市郎が文禄3年に死去し子の豊政が二歳の時に母子共に脇坂家に来たとあります。

## 4 意義

### (1) 地域の歴史の奥深さを実感する思わぬ発見

龍野藩士(村田家・中級家臣)に伝わった資料の中から秀吉の史料を発見。

地方の地方文書の中から秀吉の書状が見つかることは稀であり、「思わぬところ」からの「ドラマチック」な新発見。

### (2) 但馬と播磨、摂津地域の歴史景観を再確認

但馬地域の伝承がたつの市の史料で証明。中世から近世にかけて秀吉配下の兵庫県下において、在地武士の動向を示す好例。

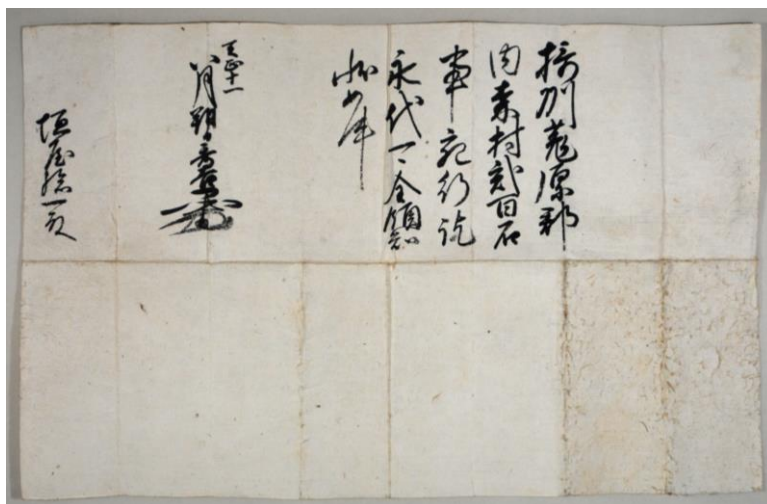
### (3) 秀吉研究に新たな史料提供

2015年春、「秀吉からのたより」において龍野神社旧蔵資料(秀吉の資料)について発表。その後、兵庫県下で秀吉関連の新出資料が相次ぎ、2017年兵庫県立歴史博物館において「ひょうごと秀吉」の特別展で公開・紹介されています。これまでの秀吉研究に対して、新資料が追加。当館は秀吉関連資料を所蔵する有数の資料館。

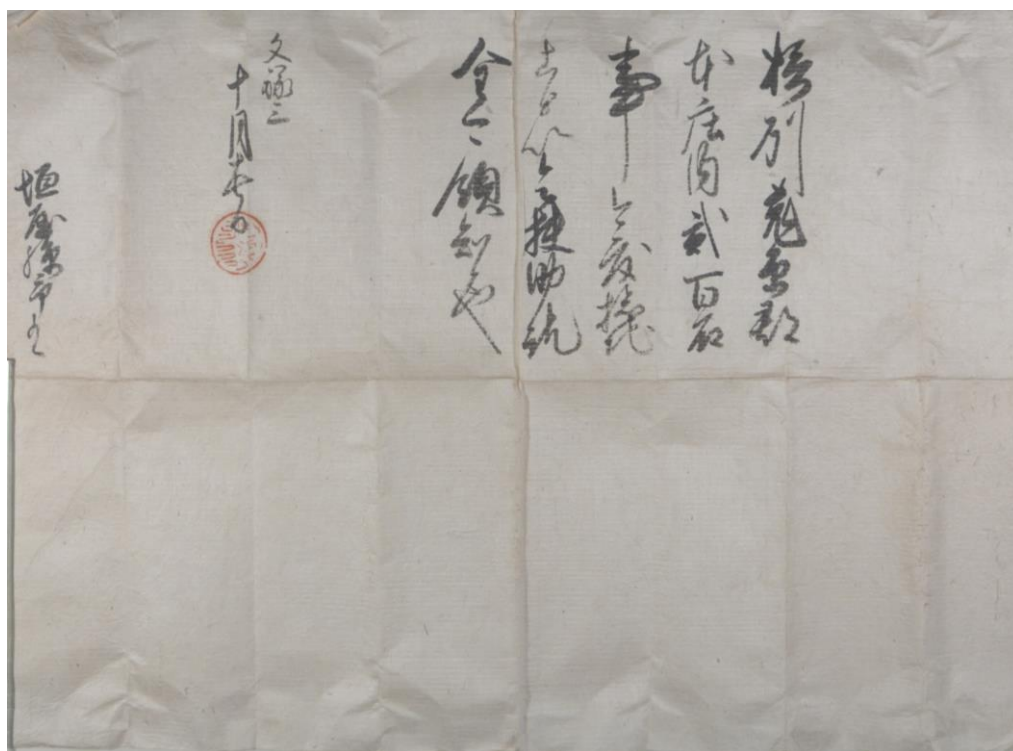
## 5 一般公開

たつの市立龍野歴史文化資料館「秀吉の書状-播磨と但馬をつなぐ垣屋氏文書-」にて公開(4月24日(土)~6月6日(日))。別紙チラシ参照

《新出史料写真》



1 垣屋孫市宛領知宛行状 天正 11 年(1583) 8 月朔日 折紙 31.5×50.0



2 豊臣秀吉朱印状 文禄 3 年(1594) 10 月 17 日 折紙 46.4×65.6

このたび発見された 2 通の秀吉文書は、状態良好で、いずれも発給時点本来の料紙の折り方がわかる。また、文禄 3 年のものは大高檀紙（おおたかだんし）が用いられている。

これらの文書は、秀吉政権の知行宛行のあり方を示す史料であるとともに、兵庫の地域史研究においては、但馬山名氏の重臣として著名な垣屋氏に関する一次史料として重要である。今回、新発見文書と既知の史料とを組み合わせることで分析された成果は、垣屋氏の庶流家が秀吉政権下でたどった道筋をうかがわせるものとして興味深い。中世の領主層が、どのように近世社会へ移行していったのかを示す一事例として重要と考える。

なお、これらの秀吉文書は、これまで未周知だった近世の史料群の中から発見されている。今後、さらに各地の近世文書の調査が進む中で、同様の新発見が得られることを期待したい。

前田徹氏(兵庫県立歴史博物館 学芸員)

【参考垣屋氏文書関係年表】 ※主に『豊岡市史』・『和田山町史』・『龍野市史』・『兵庫県史』・『但馬の中世史』・『豊岡市の城郭集成 I』・『豊臣秀吉文書集一』『垣屋文書』（兵庫県史 中世九）参照

和暦	西暦	垣屋関係	播磨・但馬の出来事	秀吉関係・日本史の流れ
天正元	1573			4月：室町幕府滅亡。朝倉義景・浅井長政自刃
天正3	1575	10月：野田合戦にて垣屋豊統が但馬・鶴城を攻める（城）	5月：芸但和睦（城）	
天正5	1577	轟城主・垣屋豊統が羽柴秀吉に抵抗。気多郡水生山城に籠城3ヶ年（豊）	12月：秀吉龍野城に入る。赤松広秀開城（龍）	羽柴秀吉播磨に侵攻。羽柴秀長但馬に侵攻
天正6	1578	4月：垣屋豊統が水生城・宵田表の戦いで、織田勢と戦い一時的勝利（城）	7月：上月城落城（龍）	3月：別所長治が毛利方に転じ、三木城に籠城
天正7	1579	7月：垣屋豊統が吉川吉春に毛利方の援軍を懇請（城）		
天正8	1580	6月：垣屋駿河守豊統、岡遠近守へ感状を送る（豊）。6月8日：垣屋駿河守（豊統）、秀吉より2千石の知行状・同23日：宮部継潤より知行状。 <u>このころまでに豊統は秀吉の配下に（垣・城）</u>	三木城の別所長治自刃。黒田孝高揖東郡1万石。一柳直末揖西郡に2500石加増。浅野長政、揖東郡に4600石。宮部善祥房豊岡城主となる（龍・豊）	6月：羽柴秀長但馬平定
天正9	1581	垣屋豊統、秀吉の鳥取城攻めに参陣（豊・和）	浅野長政、揖東郡に1000石加増。蜂須賀正勝龍野城53,000石（龍）	羽柴秀吉、但馬国から因幡国へ侵攻。鳥取城攻め
天正10	1582	11月11日：垣屋豊統書状 宇野四郎左衛門「秀吉公ト和談承伏 但馬国ニテ七千石合力トシテ被與」（垣屋文書）	脇坂安治明石郡にて30石（龍）	6月：本能寺の変。山崎の合戦で秀吉、明智光秀を破る。
天正11	1583	垣屋孫市、秀吉から摂州菟原郡森村200石の領知を宛行。（村田家文書）	但馬：前野長康（出石）、赤松秀（竹田）、別所重棟（八木）、明石左近（豊岡）が配置。片桐貞隆、揖東郡越部内に200石。津田小八郎、揖東郡堂本・片山村・日飼村、越部下庄に千石（龍・豊・文）	賤ヶ岳合戦で秀吉、柴田勝家に勝利。8月1日：諸氏に宛行状を発給。9月：秀吉大坂城を始める。
天正13	1585		蜂須賀正勝阿波に転封（龍）。赤松広秀、竹田城主に封じられる（和）	脇坂安治摂津能勢郡に一万石与えられる
天正14	1586			脇坂安治、淡路津名郡に3万石知行
天正15	1587		木下勝俊龍野城主（龍）	秀吉九州攻め
天正18	1590			秀吉小田原攻め天下統一
文禄元	1592		播磨・但馬衆 朝鮮へ出兵	文禄の役。秀吉の水軍として脇坂安治出兵
文禄3	1594	垣屋孫市、摂州菟原郡のうち本庄内200石を知行。浅野長吉より垣屋孫市宛知行目録等。孫市郎死去（村田家文書）	小出吉政、龍野城主。木下勝俊は小浜城へ（龍）	摂津で太閤検地が行われる。

文禄4	1595	「豊政時二二歳母子家工来ル」(村田家文書)。他の系図「母子共至脇坂館」など	小出吉政、龍野城から但馬出石城に転封。龍野周辺は秀吉の蔵入地	
慶長元	1596			慶長の役
慶長4	1599			秀吉死去
慶長5	1600			関ヶ原の合戦
慶長8	1603	垣屋駿河守(知継) 小出吉政より176石知行(垣)		江戸幕府
慶長9	1704			大坂冬の陣
元和元	1615			大坂夏の陣

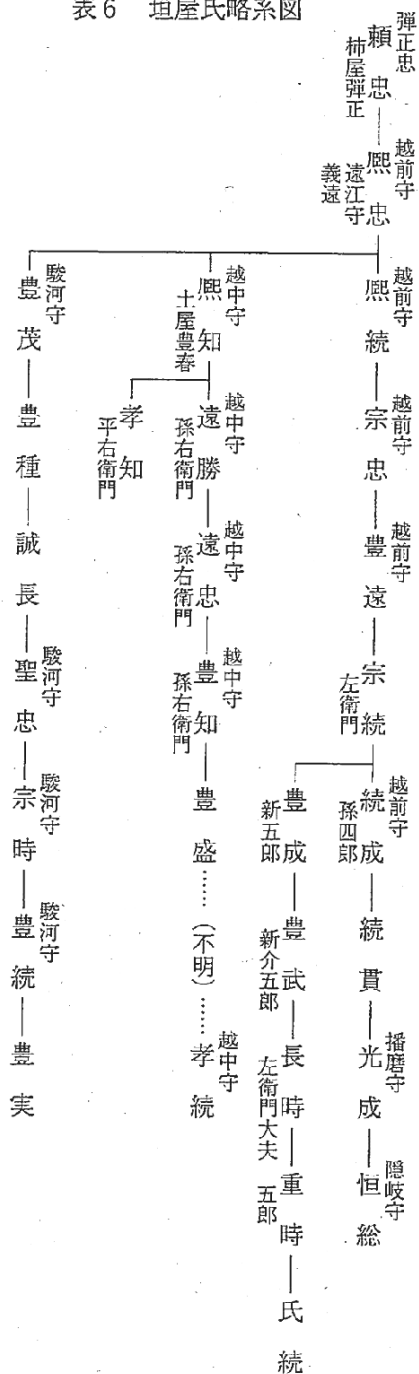
【参考系図】

中世垣屋氏略系図 『但馬の中世史』より

近世の龍野垣屋氏略系図

『諸氏略系』・『村田家文書』より

表6 垣屋氏略系図



豊実—孫市郎—豊政—正勝—久豊—豊矩—豊義—豊章—豊文—豊明—豊恭

\* 豊明の弟の「鋼八」が村田市郎左衛門長忠養子